

欠測のあるデータの解析：テーマ③
Estimandを計量生物セミナーの
事例に基づいて考える

グループ2

Estimandについて議論

- Estimand1
 - レスキュー薬を用いる意義→使い方が決まっていればレジメンとして定義可能
 - 治療戦略の比較が可能
 - 効果が薄まる可能性がある
- Estimand3
 - MARを仮定した解析では過大評価となることが懸念事項
- Estimand6
 - Estimand3の過大評価を保守的とする位置づけとして見ることができる
 - 6が現実的であるが、主解析として用いるのは難しい(手法が確立していない)
- NRC(2010)は中止後データを取得を推奨しているが、グループ内では中止後データを取得する方針は考えていない

事例1の議論(1/2)

【Population of interest】

中等症または重症のCD患者で6週時点で改善

【Clinical outcome of interest】

スコアが150以下の寛解

中止は寛解なし

【Measure of intervention effect】

割合の差

事例①の議論(2/2)

仮説	対象	被験者	評価時点	中止後のデータ
Effectiveness	割付け群全体	6週時点で改善	52週	含めない(寛解なし)

- ・ずっと飲み続けているという仮定がないため、Estimand3ではない？
- ・途中どれだけ良い結果でも52週まで続かなければ意味がない

事例②の議論

- Population of interest: 特発性肺線維症
- Clinical outcome of interest: FVCの年間減少率
- Measure of intervention effect: 回帰係数の傾き
- Estimandは1に近い
- 感度分析も1に近い。亡くなったひとのスコアはどう考える？
- Estimandがそもそも違うのか、Estimandが同じで仮定を確認しているのか